

東洋交通労働組合・共済組合 共済 2024年 旗開き・新年会



2024年1月7日(日)池袋のホテルメトロポリタンにおいて「東洋交通労働組合・共済組合 共済 旗開き・新年会」を開催し、145名が参加しました。ご来賓には全自交労連の溝上中央執行委員長をはじめ、全自交東京地連の内田委員長、日交グループ連絡協議会の仲間や、経営側からは日本交通の若林社長、仲取締役にもお起こしいただき、ご祝辞を頂戴しました。
宴では豪華なコース料理の他に、職人が握る寿司も各テーブルに振舞われ、美味しいお酒とともに舌鼓を打ち、抽選会では特賞に「温泉旅行ペアチケット」や「松坂牛1kgセット」「ダイソーン」などの豪華景品を取り揃え、大いに盛り上がりました。
筒井副委員長の三本締めで今年一年の東洋交通労働組合の発展、「ライドシェア反対」に全力を尽くすための団結を誓い合い、宴会を終了しました。

昨年同様、乗務員不足でタクシイに乗れないなど一部を取り上げた情報が拡散し、ライドシェアの導入をとの声を大きくし、問題点もろくに議論されずに政府案が示されたことは断じて容認できません。雇用によらない働き方は不安定、不正規労働を増やすことになり、利用者の安全が担保されません。人の命を預かる職業には必要な規制があり、これらを守る事業者だから初めて営業が許されています。日本の優れた制度を壊してまでライドシェアを導入する必要はありません。
東洋交通労組では年末に向けて全自交労連を取り組むライドシェア合法化反対署名が2775筆に達しました。今後もタクシイの使命を現場で果たすことが重要です。少なくともライドシェアを取得したタクシイ乗務員なら、一般ドライバーや近い未来に実現するであろう自動運転タクシイに劣ってはなりません。一般ドライバーにできないこと、AIにはできないことができてこそプロだ。加えてどこにも負けない品質の接客とサービスがついて初めて『桜にN』のタクシイになるのです。

●タクシイの未来に向けて

辰年は春の温かい日差しが大地のすべてのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年と言われています。また、あらゆるものが振動し、整う年ともされています。これまでのタクシイ業界と乗務員の努力で成長し、未来につながることを願っています。



菊池執行委員長
新年のご挨拶

新年早々の能登半島地震、羽田空港の航空機衝突事故で被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災者などに対するカンパなど支援の輪を広げていくことに協力をお願いします。

●TUNAGの輪を広げていこう!

コロナ禍も営業的には乗り越えることができ、乗務員不足も解消に近づいています。乗務員採用が進んでいる中、会社の努力に際して入社してよかったですと思ってもらえるよう組合としても賃金・労働条件の改善に加え、福利厚生充実にも取り組まなければなりません。その一環として「TUNAG」導入による組合員間の情報ツールをスタートさせました。機関誌閲覧から、各種給付申請などの情報共有が手軽にできる優れたもので、組合活動をより身近に感じてもらい、全員登録必須の身近な情報ツールです。組合員の皆さんからご要望をいただき、一緒に作り上げていきたいと思っています。

●ライドシェアに打ち勝つために!

昨年は運賃改定でようやく満足できる賃金が得られるようになった一方で、乗務員不足でタクシイに乗れないなど一部を取り上げた情報が拡散し、ライドシェアの導入をとの声を大きくし、問題点もろくに議論されずに政府案が示されたことは断じて容認できません。雇用によらない働き方は不安定、不正規労働を増やすことになり、利用者の安全が担保されません。人の命を預かる職業には必要な規制があり、これらを守る事業者だから初めて営業が許されています。日本の優れた制度を壊してまでライドシェアを導入する必要はありません。

新年早々の能登半島地震、羽田空港の航空機衝突事故で被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災者などに対するカンパなど支援の輪を広げていくことに協力をお願いします。



全自交労連
溝上泰央 中央執行委員長

●タクシイが足りないという声が出ないようしっかりと営業に取り組んでほしい
来賓の溝上氏は1月1日の能登半島地震、翌2日の羽田空港の航空機衝突事故について「石川、福井、富山の3県と新潟県の組合の仲間に影響があり、組合員の安全確認できませんでした。避難所で過ごしている方もいます。全自交労連もカンパの協力を皆さんにお願いすることになると思う」と求めました。ライドシェアについては「2002年の規制緩和から、国賠訴訟、さらには特措法改正など10年以上かけてきたものを菅・前首相が提言してから、わずか2カ月で解禁に向けた中間報告が12月26日に出されました。いまの方向性では事業者が関与した形のないライドシェア導入になるが、6月までにタクシイが足りない事態を払しょくしないといけないし、朝の6時から9時、地域としては世田谷、杉並区、さらに夜中の終電以降の1時間程度」とし、「6月まで達成できないとライドシェア新法などが制定されてしまい、白タクが都内にはびこる事態になってしまう」と危機感を示し、反対に向けた労使一丸の取り組みを強調しました。



全自交東京地連
内田 亨 執行委員長

●安全で親切な旅客輸送に心がけていただき、タクシイが安全であることでライドシェア全面解禁を阻止する岩となつてほしい
全自交東京地連の内田委員長はライドシェア合法化の一部解禁などで「健やかな年を迎えることができなかった。なぜなら岸田内閣の支持率低迷、政府三役の相次ぐ辞任など体たらくな政府から我われは喉元に刃を突き付けられたからだ。天下分け目の闘いがいよいよ始まる」と述べました。



日交グループ連絡協議会
青木康至 議長

●我々はお客様から信頼を得てきた高い品質、安心、安全を今後も高めていく以外にない
日本交通グループ連絡協議会を代表して青木康至議長「ワイエム交通労組委員長が「日交グループは日ごろから高い品質をモットーに営業に取り組んでいます。ライドシェアを駆逐するためには高い品質という武器にさらに手をかけてタクシイがあれば大丈夫だと思っただけでなく、訴えました。」

●我々はお客様から信頼を得てきた高い品質、安心、安全を今後も高めていく以外にない
日本交通グループ連絡協議会を代表して青木康至議長「ワイエム交通労組委員長が「日交グループは日ごろから高い品質をモットーに営業に取り組んでいます。ライドシェアを駆逐するためには高い品質という武器にさらに手をかけてタクシイがあれば大丈夫だと思っただけでなく、訴えました。」



東洋交通(株) 木塚 聡太 所長

東洋交通(株) 仲進 取締役

●品質は勿論のこと、お客様が必要な時にタクシィに乗れないということがないよう、タクシィが足りていない時間の無線もカバーし、乗務員としての責務を果たすことが重要

東洋交通株式会社取締役の仲進氏・木塚所長の挨拶では「ライドシェアを阻止するためには現場で働く乗務員の協力が必要となる。タクシィが足りないとわかれていて時間へのシフト変更や、会社としての色んな取り組みをお願いすることがあると思う」と強く訴えました。

●東洋交通のタクシィに乗車することがあるが、常に品質に対する意識の高さ、仕事に対するプライドを感じる
会社側を代表し、若林社長は「東洋交通が日交グループ入りしたのが2005年4月、19年目に入る。その間にグループ総台数が3885両、本体を含めると5712両となった。当初のグループ化構想では5000両を目標していたので、この目標を達成したことになる。これも先陣を切った東洋交通があったからこそだと改めて感じている。この場を借りて感謝申し上げます。時折り、日交もこれを見習い、良い意味の競争関係ができていると思う。いまタクシィ業界はピンチを迎えているが、これほどまでにタクシィ業界が世間から注目されたことはなかった。このピンチをチャンスに変えていきたい。タクシィは陣痛タクシィや観光タクシィなど付加価値がついたものもある。そして、羽田空港の事故など緊急時に対応できるのは配車をコントロールできるのはタクシィだけだ。与えられた使命を皆さんと一緒に取り組み、問題を解決していこう」と呼びかけました。



日本交通(株) 若林 泰治 代表取締役社長



ご来賓の皆様
ありがとうございました！



ダイソン
取ったぞ！



抽選はご来賓の方にご協力いただきました



特賞は温泉旅行ペア宿泊券
金賞や松坂牛・ふぐ・ずわいがに
ブランド品などが当選しました！



東洋交通労働組合
全国自動車交通労働組合
東京地方連合会

豪華景品 大抽選会！



今年の年男・年女
おめでとうございます！

